

NEWS RELEASE

2016年11月10日

報道関係各位株式会社 TSUTAYA
カルチャ・エンタテインメント株式会社

今年も日本映画界に「ミライの名作」が誕生！

「TSUTAYA CREATORS' PROGRAM FILM 2016」結果発表！

～TCP2015グランプリ作品「嘘と寝た女（仮）」は東宝製作・配給決定！～

CCCグループで、全国にTSUTAYAを展開する株式会社TSUTAYA（以下、TSUTAYA）と、映像・出版・音楽の企画製作等のエンタメ事業を展開するカルチャ・エンタテインメント株式会社（以下、CE）は、様々なエンタテインメントコンテンツを創り出すクリエイターを発掘し、製作からレンタル・販売・配信までを総合的に支援する「TSUTAYA CREATORS' PROGRAM FILM 2016（以下、TCP）」の最終審査員会を、11月10日（木）に恵比寿ザ・ガーデンホールにて開催いたしました。

さらに、昨年開催した「TSUTAYA CREATORS' PROGRAM FILM2015」の最優秀賞受賞作品「嘘と寝た女（仮）」/監督：中江和仁の、東宝製作・配給が決定いたしました。東宝とTSUTAYAがタッグを組んで、劇場映画として全国公開、さらにご家庭でのレンタル・配信作品として展開いたします。本作品の詳細については、今後随時発表してまいります。

**■TCP FILM2016 最終審査結果**

TCP FILM2016に寄せられた全422作品（TCP応募作品：375作品 / TIP応募作品 47作品）の中から、厳正な審査の結果、グランプリに渡部 亮平氏（脚本/監督）の作品名「哀愁しんでれら（仮）」、準グランプリ（Filmarks賞）にヤング ポール氏（映画監督）の作品名「ゴーストマスターズ！～呪いのビデオができるまで～（仮）」、準グランプリ（GREEN FUNDING賞）に金井 純一氏（映像ディレクター）の作品名「ファインディング・ダディー（仮）」が決定いたしました。

さらに急遽、審査員特別賞が設けられ、審査員特別賞として、箱田 優子氏（映像ディレクター）の作品名「ブルーアワー（仮）」が選出されました。

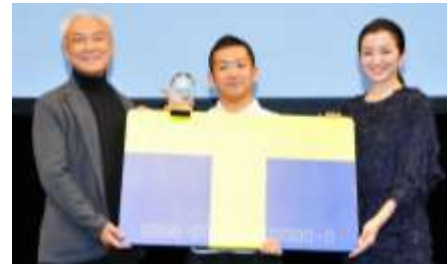
本件に関するお問い合わせ：

株式会社 TSUTAYA 広報：03-6800-4764

■最終審査員からのコメント

・鈴木 京香（女優）

「今回、最終審査に参加するにあたり、8作品の脚本を読み、作品ごとに毎回新しい気持ちになってとても楽しかったです。今回受賞されなかった方も、どうぞ、ご自身の作りたい映画を諦めずに作り続けてください。今後、みなさんの脚本を目にする機会があるように私自身も頑張っていきますので、みなさんもぜひ努力を重ねて、夢を持ち続けていただきたいと思います。」



・増田 宗昭（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 代表取締役会長兼 CEO）

「TCPが目指しているのは、映画で成功する人を生み出すことです。現在日本の映画界は、仕事の軸足を映画に置けないという人が多数を占める中、TCPを通じて、お金をもらい、自由な時間を使い、いろんなことにトライをし、良いアイデアを生み出す人を輩出したいと思っています。」

本日、8作品のプレゼンを通じて、各作品から人生そのものを感じましたし、頑張っている皆さんを見て、自分も頑張らないといけなさと感じさせられました。

TCPの目的は、才能のある人の発掘と、業界の活性化です。そのため、今回の受賞作品は、点数の高い順ではなく、「TSUTAYAらしいという視点」と「人」にフォーカスして決めさせていただきました。

「人」にフォーカスした私の思いは、「お金を残すは下、事業を残すは中、人を残すは上」という、東京市長の後藤新平さんが言った言葉にあります。つまり、すべての事柄は「人」から始まるのです。今後、映画業界をより良くしていくためには、映画を作る「人」にもっとフォーカスする映画業界であって欲しいという想いのこもったTCPの第2回目になったと思います。来年も実施しますので、来年もぜひご応募ください。また、近日リリースされる第1回目の受賞作品もぜひ応援をお願いいたします。本日はありがとうございました。」

■受賞者からのコメント

・グランプリ受賞作品：「哀愁しんでれら」（仮） 渡部 亮平氏（脚本/監督）

「悔いが残らないようにと思って、すごく頑張って準備やプレゼンの練習を重ねました。本当に映画が撮れるということが信じられないし、とても嬉しいです。本当にありがとうございました。」

・準グランプリ（Filmarks賞）受賞作品：

「ゴーストマスターズ！～呪いのビデオができるまで～」（仮） ヤング ポール氏（映画監督）

「本当に嬉しいです。ここまで来るのがとても長かったですが、ずっとやりたい企画だったので、実現できるのが嬉しいです。まだ作品は未完成であり、これから面白くしていかないといけないので、頑張ります。」

・準グランプリ（GREEN FUNDING賞）受賞作品：

「ファインディング・ダディー」（仮） 金井 純一氏（映像ディレクター）

「総評の中で犬童監督から厳しいコメントがあり、そのアドバイスは、自分も追求しないといけないと思っていたところだったので、今回は賞がもらえないと思っていました。映画化が決まって、安心したと同時に、地獄から蘇った気分です。今年は時間が結構あったため、その時間を使ってTCPにチャレンジできました。本当にこれに懸けていたので、ここからがスタートだと思っています。絶対におもしろい、グランプリに負けない映画にしたいと思っています。」

・審査員特別賞受賞作品：「ブルーアワー」（仮） 箱田 優子氏（映像ディレクター）

「わざわざ特別賞を設けていただき、ありがとうございます。映画化が決まり、非常に嬉しいです。」

今回受賞した作品には、製作費と制作体制のバックアップをし、作品完成に向けて制作を開始いたします。また、CCCグループでクラウドファンディングサービスを行う「GREEN FUNDING byT-SITE」と連動し、制作資金・プロモーション資金を広く募ることで、T会員をはじめとした映画ファンの方に映画製作に参加いただくことが可能となります。

さらに、完成した作品は、全国のTSUTAYAをはじめ、「TSUTAYA DISCAS」や「TSUTAYA TV」にて独占レンタル展開をしております。受賞作の作品情報については、今後随時発表しております。

■ TSUTAYA CREATORS' PROGRAM FILM2016 最終審査員

阿部 秀司 (株式会社阿部秀司事務所 代表取締役/映画プロデューサー)
 犬童 一心 (映画監督)
 久保田 修 (C&I エンタテインメント株式会社 代表取締役社長/映画プロデューサー)
 齋藤 優一郎 (スタジオ地図代表取締役 / 映画プロデューサー)
 鈴木 京香 (女優)
 中沢 敏明 (株式会社セディックインターナショナル 代表取締役/映画プロデューサー)
 中西 一雄 (カルチュア・エンタテインメント株式会社 代表取締役社長)
 増田 宗昭 (カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 代表取締役社長兼 CEO)

(ご参考) ■ TSUTAYA CREATORS' PROGRAM 最終審査進出作品 (プレゼンテーション順、敬称略)

① 作品名:「少年のウタ」(仮)

企画者: 甲斐 博和 (文筆業、映像作家、シエルター勤務)

企画ポイント:「少年のウタ」は、切ないほどの「生きづらさ」を抱えた13歳の少年「虎」が、フリースタイルラップと出会い、初めての友情や恋を知りながら、誰もが驚くような成長をしていく、力強くてがむしゃらな青春作品です。

② 作品名:「ど田舎ウォーズ」(仮)

企画者: 谷 絵里香 (映像クリエイター)

企画ポイント: 今っぽさが本作の売りです!「過疎化地域の学校の統廃合」という社会問題に、「クラウドファンディング」を使って立ち向かう、小学六年生の主人公。大好きな母校を守り抜きたい。だって、都会では居場所がなかった僕を変えてくれたから。少年の切なる思いは、観る人の心を揺さぶります。

③ 作品名:「哀愁しんでれら」(仮)

企画者: 渡部 亮平 (脚本/監督)

企画ポイント: 不幸のどん底にいた女が、王子様と結婚し、お城(愛の巣)に住みはじめ、徐々に家族の絆という“毒”に新色されていく…。本作は、誰もが憧れる「シンデレラ」の衝撃のアフターストーリーを描く。「幸せな女性」の象徴であるシンデレラの恐ろしい行く末を目撃してください。

④ 作品名:「ブルーアワー」(仮)

企画者: 箱田 優子 (映像ディレクター)

企画ポイント: 人生の夜明けなのか日暮れなのかどちらともつかない時間を過ごす主人公の妙齡女。嫌いな田舎に帰省するも、家族ともすれ違い、埋められない溝を確信し、結果やっぱ田舎嫌いだわ-って思うっていうみみっちい話を、実話に基づき、しけた田舎で面白おかしく美しく切り取ります。

⑤ 作品名:「ゴーストマスターズ! ~呪いのビデオができるまで~」(仮)

企画者: ヤング ポール (映画監督)

企画ポイント: 低予算ホラーの撮影現場、当然スタッフは誰も幽霊なんて信じていないが、そこにホンモノの悪霊が現れ

た…！映画を信じて過酷な撮影現場に身を置くスタッフたちが、死んでもビデオを完成させようとする熱血ホラーコメディ！！！！！！

⑥作品名：「東雲コントラスト」(仮)

企画者：野村 東可 (会社員)

企画ポイント：いま、大人になる過程で、自分で「自分の気持ち」を問うことを経ない人たちが多くいるように思う。その邪魔のひとつが、社会がひく境界線だ。周囲の人たちの優しさがそれをなくし、そのとき本来の自分に出会える、という作品。

⑦作品名：「ファインディング・ダディー」(仮)

企画者：金井 純一 (映像ディレクター)

企画ポイント：笑えて泣ける、感動のエンタテインメント作品。物語は、白血病の娘、血のつながりなど、シリアスなテーマを扱うが、三枚目で冴えない父親の必死な姿を通して、見る者に笑いと、深い感動を与えたいと思う。

⑧作品名：「デッド・レター～配達不能の手紙～」(仮)

企画者：斉藤 玲子 (映画監督)

企画ポイント：「今世の中で起こっていること」を「エンタテインメント」で「新しいもの」として表現しようと練りあげ生まれた殺人鬼です。善意の殺人鬼と対決する若き医師は正義を貫けるのか、主人公と一緒に恐怖を体験できます！